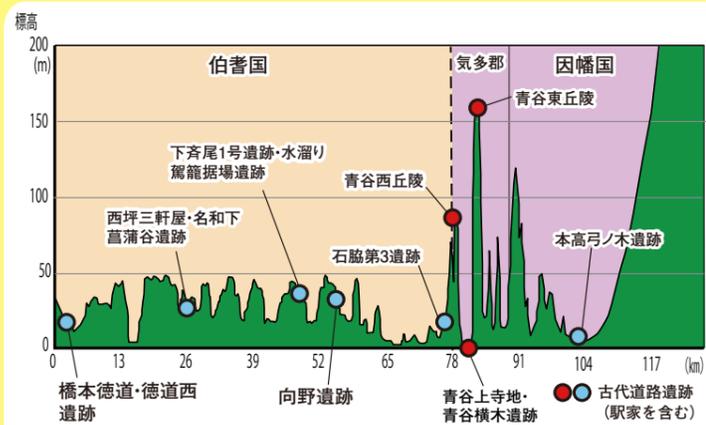


今後の調査予定

古代山陰道は気多郡に入ると高低差を乗り越えなければなりません。山陰地形の山岳地帯を特徴を考えると、気多郡は古代山陰道の特徴を線上にあたる青谷西側丘陵でも、大規模な切通しを確認していることから、来年度は青谷西



因幡・伯耆における古代官道の高低差

※グラフは古代山陰道推定ルートをもとに、国土地理院HPから作成。



湯梨浜町石脇第3遺跡
青谷西側丘陵から国境を越え伯耆国に入ると、湯梨浜町石脇第3遺跡で伯耆国笠賀駅家とみられる建物跡が見つかっています。



山陽道の布勢駅家(播磨国・兵庫県)イメージ図
(提供:北海道教育大学教授中村太一)
駅家は役所(官衙)や寺院と同じく瓦葺きの格式高い建物が建っていたと考えられています。

参考資料

古代山陰道とは？

古代山陰道は、飛鳥時代から奈良時代にかけて律令国家が整備した大規模な道路である駅路の一つです。駅路は「七道駅路」とも呼ばれ、都と地方を最短距離に結び、情報をいち早く伝えるために全国に張り巡らされました。駅路は発掘調査により、直線的で幅広く、側溝なども備えていたことが明らかとなっています。

青谷の古代山陰道とは？

青谷平野では、青谷横木遺跡と青谷上寺地遺跡で古代山陰道と考えられる道路遺構が発見されています。道路はいずれも盛土工法で築かれ、国内で初めて土地区画である条里地割もセットで確認されています。また、道路の盛土内には葉や枝を敷き詰め、道路盛土の地盤を補強し、排水を行う「敷葉・敷粗朶工法」と呼ばれる高度な土木技術が確認されています。当時の青谷平野は弥生時代から続く潟湖が依然として残されており、軟弱地盤を克服するためにこうした高度かつ、最先端の土木技術が駆使されたと考えられます。さらに、青谷横木遺跡では国内初となる柳の並木が発見され、重要な発見が相次いでいます。



古代山陰道推定ルートと発見された道路遺構



古代山陰道

令和3年度発掘調査現地公開資料

令和3年9月29日
鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県埋蔵文化財センターでは、平成30年度から古代山陰道のルートや構造、築造時期の解明を目的とし、本格的な調査研究を進めています。令和3年度は、青谷東側丘陵の養郷狐谷遺跡と青谷西側丘陵の青谷大平遺跡の発掘調査を行いました。



発掘調査概要

養郷狐谷遺跡

- 【所在地】 鳥取市青谷町養郷字狐谷など
- 【立地】 養郷新林遺跡の東側、標高141～167m前後の丘陵尾根から谷部
- 【調査期間】 令和3年度調査：令和3年7月13日～11月
- 【調査面積】 令和3年度：約42㎡（トレンチ3本）

青谷大平遺跡

- 【所在地】 鳥取市青谷町青谷・吉川
- 【立地】 標高80～100m前後の丘陵上
- 【調査期間】 令和3年8月6日～11月
- 【調査面積】 約58㎡（トレンチ4本）



青谷の古代山陰道復元イラスト
(山本正治 作)



調査成果

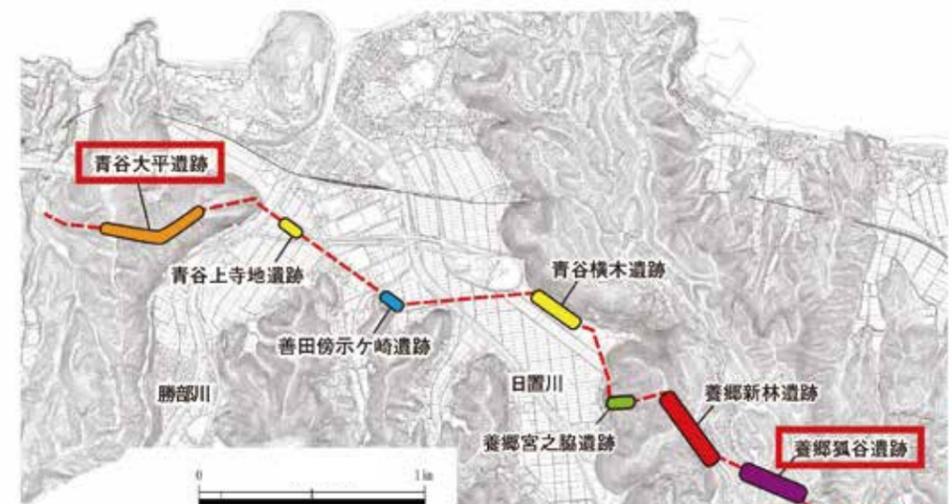
養郷狐谷遺跡（青谷東側丘陵）

- 丘陵鞍部を大規模に埋め立てて道路を造成していることが明らかとなりました。土留めとみられる杭の痕跡も確認し、地形に合わせて多様な土木技術を駆使して古代山陰道はつくられたと考えられます。
- 道路が斜度20～25度の斜面を直進していることが分かりました。つづら折りが見つかった養郷宮之脇遺跡とともに急斜面における古代官道のルートや構造を解明するうえで貴重な成果といえます。

青谷大平遺跡（青谷西側丘陵）

- 丘陵尾根上で切土（オープンカット）工法でつくられた大規模な道路遺構を確認しました。道路遺構は、青谷上寺地遺跡から続く古代山陰道にあたる可能性が高いと考えられます。
- 発掘調査により、丘陵尾根の約500mにわたって切通しなどの古代道路の痕跡が良好に残されていることが明らかとなりました。
- 道路は尾根上に連なる古墳（吉川古墳群）を壊してつくられており、国家権力によってつくられた古代官道の性格を示す成果といえます。

これまでの発掘調査により、青谷地域では古代官道が平野部から丘陵部にかけて一体的に復元できるようになりました。これは全国的にも例がなく、古代道路研究において欠かすことのできない重要な成果といえます。



古代山陰道推定ルートと発見された道路遺構

青谷西側丘陵

あやおおひら

青谷大平遺跡

青谷東側丘陵と同じく側溝をもつ、大規模な道路遺構が確認されました。道路遺構は3時期（1～3期）の道路変遷をたどり、幅広い道路が次第に縮小されていく様子が明らかとなりました。



トレンチ1周辺 丘陵頂部に残る大規模な切通し（北東から）



トレンチ1 古墳を壊してつくられた道路遺構（南から）



赤字：R3 発掘調査区



トレンチ4（南東から）



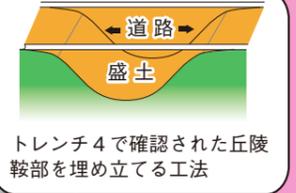
トレンチ3（南東から）

青谷東側丘陵

ようこうきつなだに

養郷狐谷遺跡

高低差のある険しい丘陵地帯を、側溝を持つ最大幅約9mの道路遺構が尾根から斜面、谷部へと、切土工法や盛土工法を巧みに組み合わせて乗り越えていることが明らかとなりました。



トレンチ4で確認された丘陵鞍部を埋め立てる工法



トレンチ4 丘陵鞍部を埋め直線的に延びる道路痕跡（東から）



トレンチ4 道路盛土と土留めとみられる杭の痕跡（北東から）



赤字：R3 発掘調査区



トレンチ5 急斜面を直進する道路遺構（北東から）



トレンチ5 路盤に施された道路盛土（北東から）